

禁食中の患者に対する看護 ～看護婦・士の意識とその現状～

11階東病棟 ○反町和正 大熊 小嶋

はじめに

「食欲」とは人間の三大欲求の一つであり、事実、入院時の患者用基礎情報用紙をみると、「健康とはものをおいしく食べられること」という意見が多いように感じる。消化器外科病棟では、検査や手術という治療上の理由から禁食になるケースは多くある。その為、患者同士の食べられないことに対する会話を耳にしたり、患者から食べられないことへの訴えを聞くことが多い。このような状況下で、患者が禁食に対し大きなストレスを感じているのではないかと考えた。そして、こうした患者に対し、どのような看護を提供していくべきなのかという点を明らかにしたいと思った。しかし、先行文献においては禁食中の患者のストレスについての報告例のみであり、それに対する看護を明らかにしているものはなかった。

そこで、禁食となる患者と禁食の患者に接する看護婦・士に対して意識調査を行い、現状を知ることができたのでここに報告する。

I 研究方法

1. 対象：①一週間以上の禁食が終了した患者33名
②上記患者が入院対象の病棟に勤務する看護婦・士79名
<8階、11階東、16階東、17階西>
2. 期間：①平成12年10月1日～平成13年1月10日
②平成13年2月1日～平成13年2月20日
3. 用語の定義
禁食：治療上の理由により、食事を許可されない状態。また、その状態が一週間以上続く場合。ただし、飲水は可能とする。
4. 方法：①、②ともに質問紙調査法

1) 質問内容

患者に対する質問：

①禁食期間②禁食となった理由③禁食中、空腹を感じることがあったか④禁食中、空腹の他に感じたこと⑤空腹を感じたとき、どのように過ごしていたか⑥禁食中、空腹を感じなかった理由⑦看護婦・士の禁食中の患者への接し方について ⑧禁食中の看護婦・士の接し方について

看護婦・士に対する質問：

①臨床経験年数②患者は空腹を感じていると思うか③患者は空腹の他に何を感じていると思うか④患者が空腹を感じたときどのよう

に過ごしていると思うか⑤禁食中の患者への接し方について気をつけていること⑥禁食中、患者にストレスを表出されたことがあるか⑦表出された内容

2) 回収率：①81.8% ②98.8%

有効回答率：①、②ともに100%

3) 分析方法：・単純集計

・ χ^2 検定

禁食中、空腹を感じることがあったかどうかについての、患者と看護婦・士の意識の違い<患者に対する質問③>、看護婦・士に対する質問②>

経験年数別による差について<看護婦・士に対する質問⑤>

II 結果

今回の調査により、図1から図8、表1から表2の結果を得た。禁食中の空腹の有無について、空腹を感じることがあったと答えた患者は22.2%、感じることはなかったと答えたのは77.8%であった。(図1) 一方禁食中に患者が空腹を感じていると思うと答えた看護婦・士は96.2%、感じていないと思うと答えたのは3.8%であった。(図6) この結果については、二群間で有意差を認めた。(P<0.05)

経験年数により患者への接し方に違いがあるかについては、図8より全ての項目について1～3年目と7年目以上において、二群間で有意差を認めた。(P<0.05)

III 考察

当初は、禁食により患者はかなりの空腹とそれによるストレスを感じていると考えていた。同じように空腹を感じているのではないかと考えている看護婦・士が96.2%であるのに対し、空腹を感じていない患者が77.8%であった。ここに、看護婦・士と患者に意識の違いがあることが分かる。また、患者が空腹を感じることが少なかった理由としては、「お腹がすかなかから」という理由が54.8%と最も多く、次いで疼痛、チューブ類への不安などが挙げられている。米津ら¹⁾は「手術後の長期禁食による胃の刺激低下、発熱や疼痛などによる不快感、高カロリー輸液による血糖値の安定により空腹感がなくなる」と述べている。ここからも、患者は禁食に伴う空腹感よりも治

療上必要な処置に伴う苦痛に関心を持っていることがわかる。

看護婦・士が禁食の説明のときに工夫している内容として、「できる限り詳しい説明をして納得してもらおう」、「今後の見通しを話す」などがある。患者が禁食を守ることができている現状から、これらの看護婦・士の対応が患者の対処行動の一助になっていたのではないかと考える。また、禁食中の患者への接し方に関しては、1～3年目は「食事の話を避けている」が多く、これは一見、禁食に関して気を遣っているかのように思われる。しかしさらに経験年数を重ねた7年目以上では「患者の個性によって話をするかどうか決めている」、「あえて何もしない」などといった看護が挙げられていた。これは、より患者の個別性をふまえた看護を提供しているということを示唆している。

従って食べられない＝空腹ということにとらわれず、禁食の理由・期間などの背景について考慮し、それぞれの患者に合わせた対応をしていくことが重要である。

IV 結論

1. 禁食中の患者は、看護婦・士が考える以上に空腹を苦痛と感じていない。
2. 禁食中の患者は禁食に伴う空腹感よりも治療上必要な処置に伴う苦痛に関心を持っている。
3. 経験年数を重ねるにつれ、患者の個別性を考慮することができる。

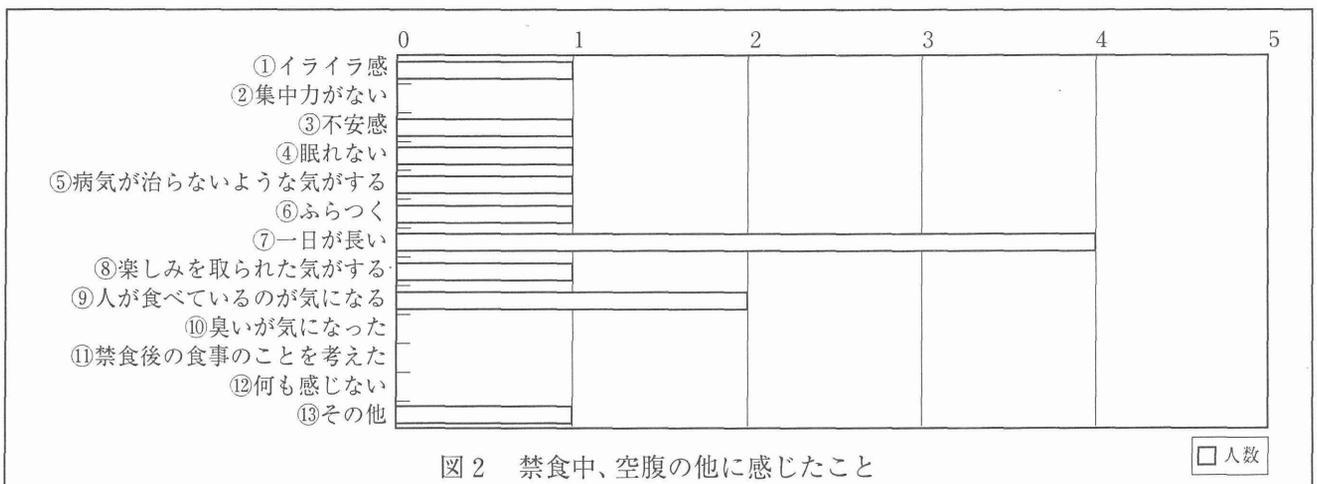
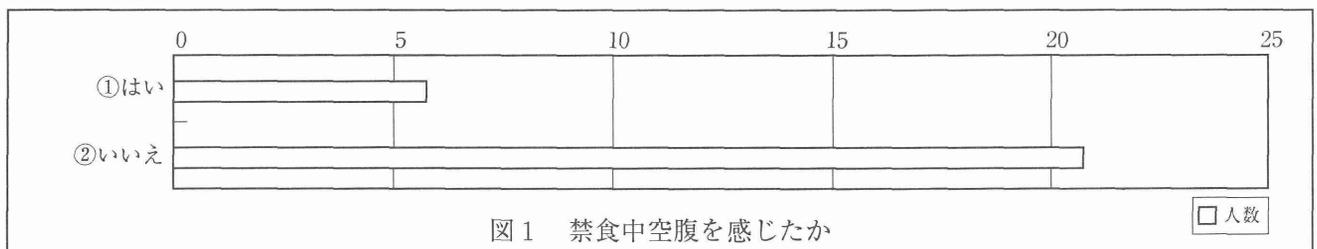
V おわりに

今回の研究により禁食中の患者についての現状を知ることができた。しかし、患者の禁食には様々な背景があり、患者の真意を汲み取るには限界があった。今後はこれらの結果を生かし、看護に役立てていきたいと思う。

引用文献

- 1) 米津苗子ほか：禁食における患者の精神的負担に関する調査、日本看護協会東海・北陸地区看護研究学会集録、F Y 6、pp.135-144、1994
- 参考文献
- 1) 若嶋陽子ほか：絶食を伴う検査のオリエンテーションを再考する、東海北陸地区看護研究学会集録、F Y 4、pp.14-22、1992
- 2) 嶋文子：食べられない患者に必要なほんの少しの配慮、Nurse eye、5 (1)、pp.34-35、1992
- 3) 植田栄子：なにげない「ことば」が患者にもたらずもの言語学の視点から、看護学雑誌、63 (11)、pp.1050-1057、1999
- 4) 田中陽子ほか：食事制限を受けている患者への心理的援助を考える<体験学習を通して>、看護教育、34 (11)、pp.858-860、1993
- 5) 吉谷須磨子：食摂取機能が障害された患者への援助<食欲不振にみる研究視点をさぐる>、臨床看護、22 (1)、pp.37-43、1996
- 6) 渋谷えり子：<食摂取へのケア技術>栄養・代謝障害患者、臨床看護、22 (1)、pp.66-69、1996

患者への質問



患者への質問

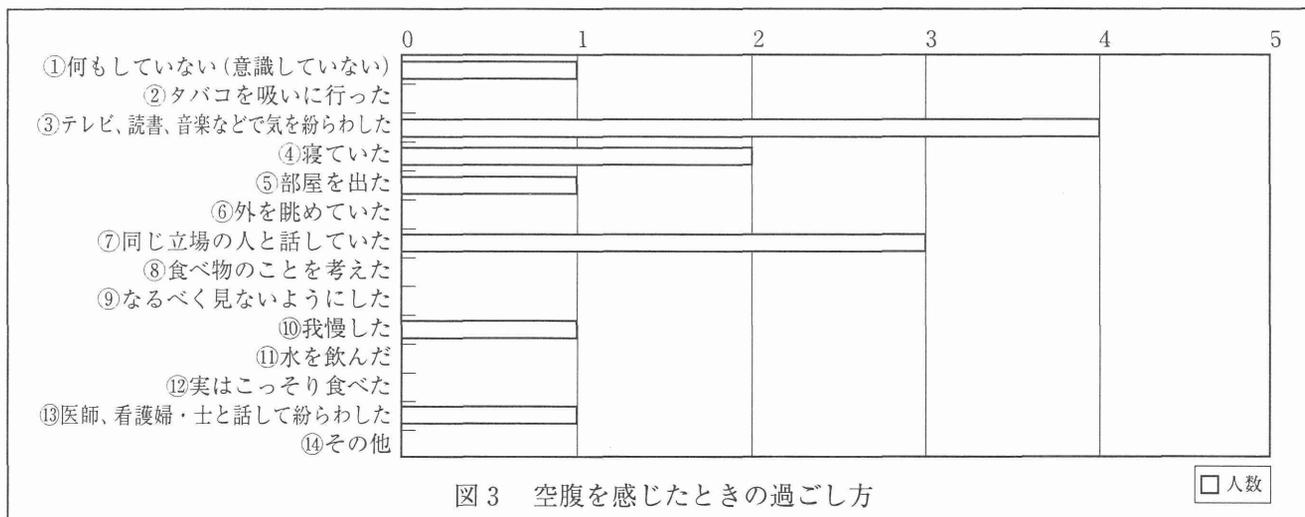


図3 空腹を感じたときの過ごし方

□人数

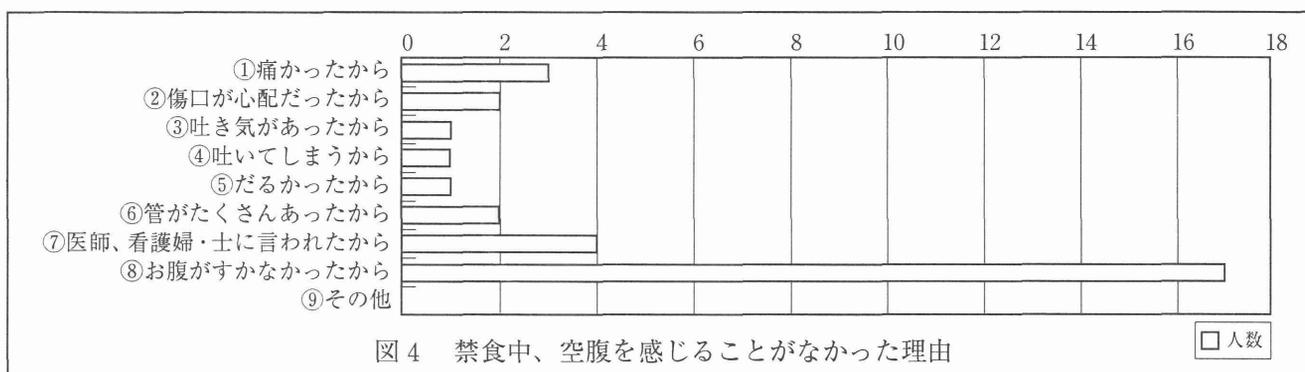


図4 禁食中、空腹を感じることがなかった理由

□人数

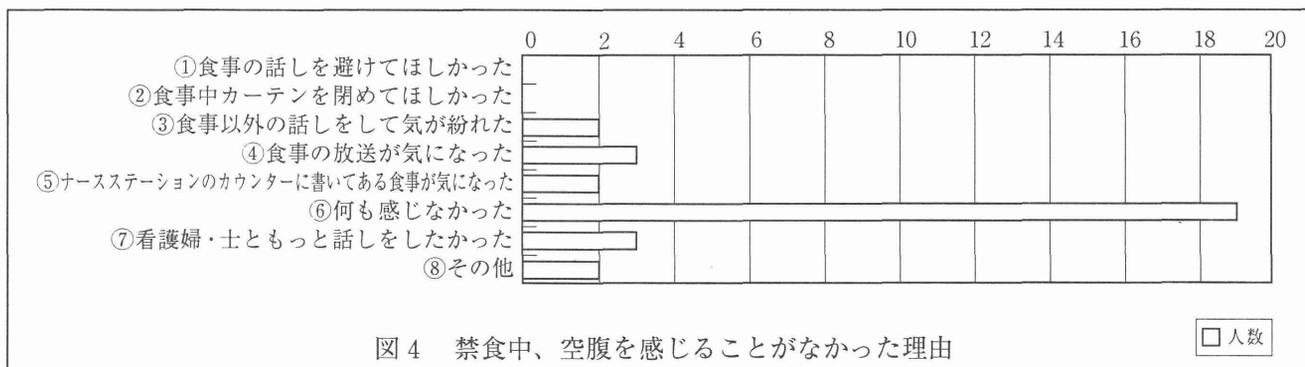


図4 禁食中、空腹を感じることがなかった理由

□人数

表1 禁食中の看護婦・士の言動について気になったこと

- ・禁食が終わったことを皆さんがとても喜んでくださったので感謝しています
- ・忙しいのにとってもよくしてもらっていると思います
- ・術後の患者は気が高ぶっているので、患者の要請以外はあまりかかわらないようお願いしたい
- ・医師と患者、話しや相談事に看護婦は介入しないで下さい
- ・励まされて助かりました
- ・看護部さんに感謝しています
- ・早く腫瘍をとってもらいたい一心でした
- ・ナースステーションのカウンターにある食事が気になった
- ・テレビで見る、食に関する番組がストレス解消に役立った

看護婦・士への質問

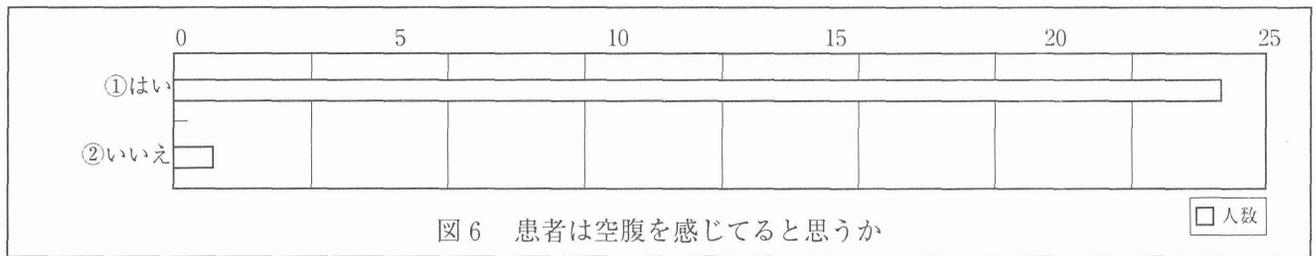


図6 患者は空腹を感じてと思うか

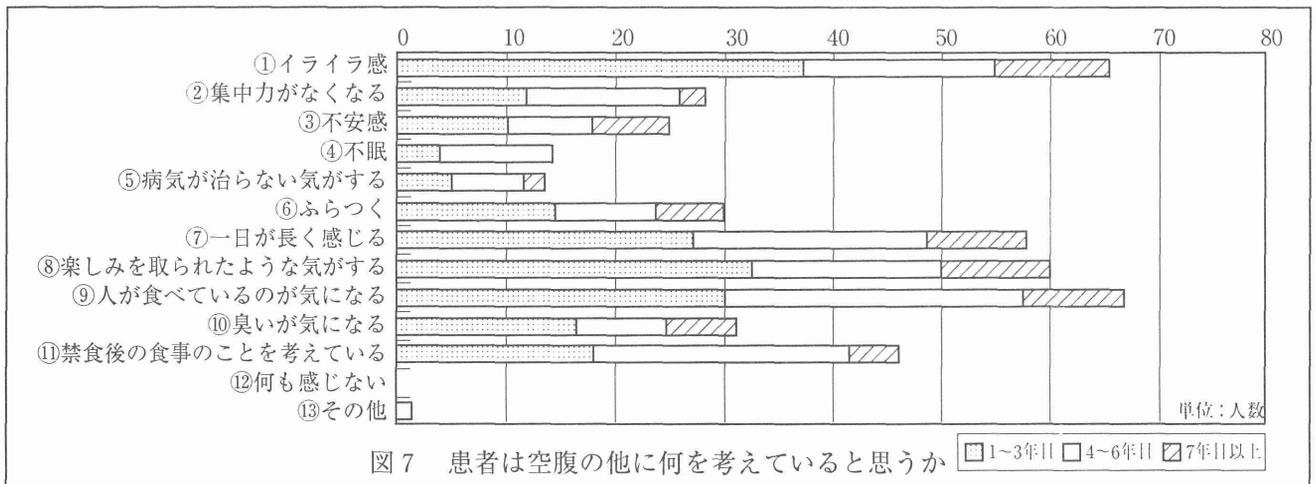


図7 患者は空腹の他に何を考えていると思うか

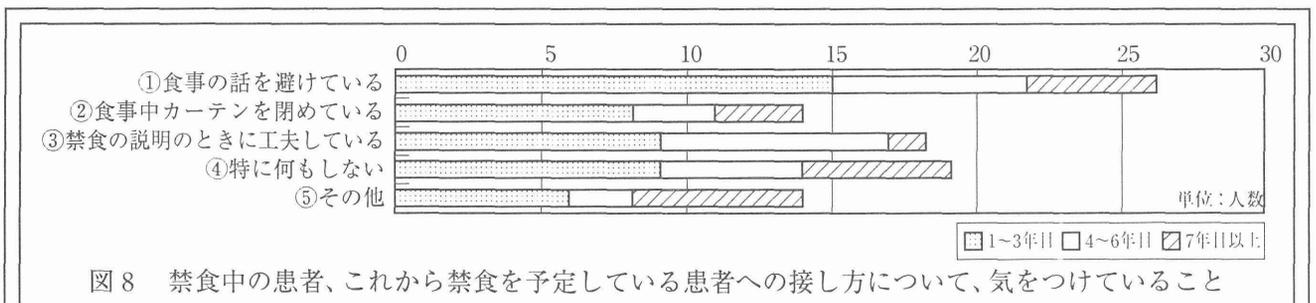


図8 禁食中の患者、これから禁食を予定している患者への接し方について、気をつけていること

③の内容

- ・できる限り詳しい説明をして納得してもらう
- ・質問・疑問にはキチンと答える
- ・禁食の必要性、禁食期間、今は食べられないことを説明する
- ・今後の見通しを話す
- ・点滴による栄養補給について説明する
- ・どのような状態になれば食べられるようになるのか伝える
- ・含嗽は可能であることを説明

⑤の内容

- ・飲んでよいものを具体的に説明する
- ・話を聞く
- ・患者様の個性によって食事の話をするかしないか決めている
- ・今後の予定について話し、励ます
- ・禁食することの意義について話し、禁食が治療の一つであることを認識してもらえよう援助
- ・食事の話題をあえて避けない
- ・禁食中のストレスを注意して観察する
- ・あえて何もしない
- ・傾聴する

表2 禁食中、患者にストレスを表出されたことがあるか(その内容)

<ul style="list-style-type: none"> ・「食べ物のことばかり考えてしまう」 ・「他の患者が食べているとき、部屋にいられない」 ・「料理番組を見て、気を紛らわしていた」 ・「点滴を見ていると空腹を感じないが、口から栄養を取りたい」 ・「人間なんだからご飯を食べたい」 ・点滴に関する質問をされた ・「周りが食べているのが気になる」 ・「食事のときに臭いがあるので、食べなくなる」 ・「力が出ない」 ・「飯を食わせないと死んでしまうんだから、早く食わせろ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「病気が悪化した気になる」 ・「食事をしないと時間の感覚が鈍る」 ・禁食のためだけではないと思うが、夜中に突然錯乱した患者がいた ・「眠れない」 ・「楽しみだったのに、」 ・「生きている気がしない」 ・「体は元気なのに、おなかがすいてつらい」 ・「口が寂しい」 ・「ご飯をたくさん食べる夢を見た」
--	---